

これからの小中学校についての意見交換会記録

【令和4年9月27日（火）南部構造改善センター】

会の中での質問と回答

<質問①>

なぜ、鷺津や新居や岡崎地区は減らないで知波田や白須賀は減るのか、それに対して教育委員会はどのような見解を持っているのか。

<回答①>

新居地区も今後大きく減少する見込みで、10年程すると、新居小も新居中も2クラス規模になる。鷺津地区も少しずつ減少しており、岡崎地区だけ少しずつ増加している。鷺津地区や新居地区は減少するが、南部地区や北部地区と比較すると、減っても2クラス以上は維持される状況。湖西市内全体で子どもの数が減少しているが、湖西市に限った事ではなく全国的に減少している。

参加者からの意見

<意見①>

白須賀地区は条例で家を建てにくい状況があるため、他の地域へ行ってしまう。子どもの数を増やす施策を行ってほしい。子どもがいなくなるまで存続するのが理想だと思う。

<意見②>

この問題は市の存続にかかわることであり、市が本腰挙げて考えないといけない。湖西市の20年後、30年後は万端だという施策を考えて欲しい。国全体が減少しているが、全国的に見ると人口が増えているところがあり、そこは子育て支援がしっかりしている。湖西市へ行けば子育てができる、幸せになれるという施策をやって欲しい。

<意見③>

いろいろなメリット、デメリットを話しているが、メリットがデメリットに、デメリットがメリットになることもある。違う視点で見ると違った見方ができるので、聞いたことをそのまま鵜呑みにするのではなく、自分でも調べていくことが大事である。

<意見④>

地域がなくなると、地域の人が助け合ってやっているサービスのことを、全て市が負わなくては行けなくなり、市の予算が膨大になる。学校がなくなる以上に予算がかかるということも試算すれば、学校をなくしてはいけないことが分かってくる。

<意見⑤>

市の施策に問題がある。雇用促進住宅を湖西市の中心街に建てたが、利木や白須賀の方に立てるべきであった。工場や工業団地の開発は行ったが、そこへ通う労働者用の住宅施策をしてこなかった。湖西市は浜松や豊橋へ行くにはちょうどいいところであり、住むところさえ提供できれば発展する余地が山ほどある。そういう施策が白須賀の少子化対策になる。白須賀中学校の子どもたちを新居中学校、岡崎中学校に分けるといいうが、精神的な不安が相当なものになると思う。人数はそれほど大きな問題とは言えない。

<意見⑥>

適正化検討委員会の報告書に、特別支援教育の充実という付加価値を付けた小中一体型の案があり、いいと思っていたが、今回の説明ではあまり色濃く出ていないのがっかりした。少子化は日本の問題。少人数の学級経営をしなくてはいけないという発想をもって全国でいろいろな工夫をしている。白須賀くらいの状況ならば何とか残していこうという気持ちをもってもいいと思う。

<意見⑦>

人数が少ないと、集団での運動が行いにくいという話があったが、ここ2、3年はコロナで、複数クラスあっても交流や集団的なことはできず、先生方が工夫して授業を行っている。また、人数が少なくなるとコミュニケーションが取れないというが、GIGA スクール構想で子どもたちは一人一人タブレットを持っており、学校の中で完結する時代ではない。保護者や地域の方が受けてきた学校教育を念頭において考えていると、不安になるのではないかと思ひ発言した。

<意見⑧>

自分も白須賀小、中を卒業したが、当時は学年に60人くらいいて友達もそれなりにいたが、現在就学前の息子たちが小学校に入る頃を見ると、16人や19人とかなり少ない。地域のことを考えると、残した方がいいのかもしれないが、私としては今すぐにでも他の学校へ行けるといいという思いがある。子どもにとっては学校がコミュニティのほぼ全てで、そこで人間関係が成り立っていく。卒業するとき、友達100人できるかなという思いで入学してみたら、男の子が半分として8人となると、かなり寂しい。子どもが多いところへ行けば、多くの人と関わることができるし、いろいろな人と関わることで人間としてもいろいろ成長すると思うので、多い方がいいと思う。距離の問題もあると思うが、安全で安心して通うことができるという考えのもとで、他のところへ行けたらいいと思っている。